

県内移住就農

新規参入

たかばたけ のぞむ

高畠 望さん（真庭市蒜山）



就農：2009年（就農当時32歳）

新規就農研修：なし

就農パターン：県内移住就農（岡山市出身）

耕地面積：40a（うち借地30a）

経営面積：トマト40a

経営参画者：本人、妻

就農前の自分にアドバイスするなら、『そんなに儲からないぞ。現実は思ったとおり、きついぞ。———だけど、とても気持ちいいぞ』。

——**就農のきっかけは？**

「他人に管理されない農業で生計を立てたい」と考え、そのために農業法人で働くなど、準備をしてきた。

——**前職の経験は活かしている？**

広島県の農業法人で、うまくいっている時のトマトの姿を感覚的につかむことができた。その経験から、理想の栽培状況を頭に浮かべながら栽培に取り組むことができている。

——**岡山（真庭市）を選んだ理由は？**

農的な暮らしがしたいが、住むところの利便性も重視した。広々とした環境で、観光資源が豊富、人流も多く、ちょっとした買い物ができる場所も近くにあり、必要な社会インフラが近隣に整っている「蒜山高原」に魅力を感じた。

——**「トマト」を選んだ理由は？**

企業も参入している品目であり、将来性を感じた。トマトは岡山県が推進している品目であり、真庭市もピオーネとともにトマトを推進している。

——**就農で苦労した点と解決方法は？**

【農地】

JAや、知人からの紹介でうまく入手できた。

【資金（経営・生活）】

就農初期は想像以上の経費が掛かり、貯蓄の取崩しもやむなしだった。営農活動に支障が出ない程度に、産地の仲間の紹介による副業も行って、収入を補った。

【栽培技術】

広島県の農業法人では技術自体は教わっていないものの、どのような栽培を目標とすればよいかの感覚を養えた。一方で、ハウス、灌水設備の組み方、支柱の立て方など、トマトを植えるまでの準備、段取りが分からなくてとても大変だった。

自分から積極的に、地元生産者にそれぞれのやり方を聞いてまわり、自分に合ったものを取り入れていった。また、JA、書籍などで情報を収集するなど独学で栽培技術を蓄積している。

【住宅】

就農当時、真庭市が取り組んでいた空き家バンクを活用させてもらった。近隣に食料品店が存在したことも場所選択理由の一つ。

——計画と現実のギャップはあった？

覚悟はしていたけれど、思ったより体力的にきつい。

——地域への適応、順応に苦労した点、気を付けた点は？

地域活動への参加など壁をつくらず、通常の関わり合いを心がけている。自分から積極的に聞きに行き、「かわいがってもらえる」ようにすればよいと思う。

——今後やりたいことは？

トマト栽培において、新たな一手も考えていきたい。例えば出荷基準で赤く着色した果実は規格外になるが、こういったものも無駄にせず商品化につながる経営戦略も検討し、収入増にもつなげたい。

——農業のやりがいは？

農業は生計を立てる手段ではあるが、栽培シーズン中であっても、シーズンオフ期間中であっても、自分のペースでできることがとてもよい。一日のスケジュールだけでなく、年間の予定も組み立てることができ、自身のモチベーションが維持できる。

——産地に入るメリットは？

生産者部会で、栽培技術だけでなく、様々な情報共有、情報交換が行えること。

また、当産地には選果場が整備されており、トマトを持ち込むだけで選別、箱詰め、輸送、販売、代金決済やクレーム対応なども行ってくれるので、トマトの技術習得に専念できることも、大きな魅力。

——トマト以外の、地域での活動は？

2019年、真庭市から、「過疎・高齢化で地元集落だけでは維持管理が困難となって

いた草原の『茅』^{かや}を刈って出荷しませんか」と声を掛けられ、「稼ぎのない冬の小遣いにもなれば」と考えて始めた。茅刈に手応えを感じたので、30代のトマト農家仲間に声をかけ、2021年「蒜山茅刈出荷組合」を組織し、組合長として草原の保全活動も行っている。茅は、建築家の隈研吾氏が設計した施設の内装にも活用され、現在の販売ルートに加えてさらなる用途の広がりにも期待している。かなり引き合いが強く、刈れば刈るだけ売れるが、茅の種類や刈る時期、乾燥程度に関する指定も多い。

——後進へのアドバイスは？

事前の準備がとても大事。やりだしたら迷わないこと、金銭的にしんどいことも覚悟しておくこと。周りのトマト農家に自分から聞きに行く姿勢・教わる姿勢が大切。かわいがってもらえれば、様子を見に来てくれたり、思わぬ仕事を紹介してもらえたりすることもある。インターネットにばかり頼って、周りと関わる機会を潰すのはもったいない。

——就農前の自分へのアドバイスは？

そんなに儲からないぞ。現実は、思ったとおりにきついぞ。

だけど、とても気持ちいいぞ。

